

今週のインタビューは、ニコール・クレマーさんにお話を伺います。

まず、どこで生まれたか、どちらで育ったか、何を勉強しているかなど、ご自分のことを少しお話していただけますか？

クレマー： はい。私はミシガン州のパルマ、ちょうどミシガン州ジャクソンの郊外にある小さな町で生まれました。それから高校までずっとそこで育ちました。今はミシガン州立大学に在籍していて、機械工学を勉強しています。今四年目なので、もうすぐ卒業です。その他については・・・仕事ですが、つい最近発電会社の夏のインターンシップを終えたばかりで、今は授業の合間を縫ってお小遣い稼ぎにサッカーの審判を再開したところ です。

そうですか。それで機械工学、と言うと、実際どんなことを勉強するのですか？

クレマー： 機械工学は幅広いので、設計でも、応用でも、どちらの方面に進んでもいいんです。私は今はどちらかと言うと応用の方に向かっていて、発電産業とか、ポンプやタービン、バルブといったものを扱った仕事の方に進んでいます。

お友達は将来、他にどんな分野に進んでいく可能性がありますか？

クレマー： 何人かの友達は生物医学産業の方面に進むので、人工装具の設計というようなことをやることになりそうですし、他の人は自動車産業に行ったり、石油関係に行く人もいます。

勉強以外に、サッカーの審判をしている、という話でしたが、楽しみ（遊び）と学業を両立させるには、何か方法があるはずですよね？ 生活を楽しみながらも優秀な学生でいることに対して、どんな風に考えていますか？

クレマー： 多くの場合、週の真ん中、つまり月曜日から木曜日、金曜日の間は、学業に専念して、勉強して、週末になったらリラックスする時間ができるので、友達と楽しく過ごしたり、出かけたり、とにかく学校の勉強とか考えないようにしています。必要な時は、やり方を変えることもします。例えば、必要な時は優先順位を変えて、試験とか、大きなプロジェクトを控えていたら、調整して、それじゃあ今週末はとにかくちゃんと勉強に専念したり、グループで作業したり、やることをやって、それが終わったら引き返して、またいつものリラックスしたりするスケジュールに戻ります。それから学期初めには、お小遣い稼ぎに大体どれくらい働く時間の余裕があるかが分かるので、審判とか、他のキャンパスでの仕事、時間の融通が効くものもあるので、もし、ああ、もう、ちょっとやりすぎじゃない？ って思ったら、少しペースを緩めて、自分自身に負荷をかけすぎないように

にします。

そうですか。アメリカの学生は、日本の大学生と違って実はよく勉強する、というステレオタイプがあります。アメリカでは、日本人の方が勤勉だ、と思われているようですが、実際は、日本人はそうは思っていません。普段、授業がある時は、どれくらい学校から、または授業から宿題が出されますか？

クレーマー： 私の専攻—機械工学に関して言えば、特にもう最終学年なので、継続しているプロジェクトがたくさんあって、勉強の量としては、多い時少ない時がありますが、何の授業が控えているか、どんなプロジェクトを進めているか、実験研究とかによって、毎晩一時間から四時間分の宿題が出ることが多いです。宿題の量が少なければ、一、二時間お小遣稼ぎをすることもできますが、多い方、四時間強ある場合は、一旦引き下がって優先順位を変えて、しばらく学業に専念します。

分かりました。それでは少しご家族のことを聞かせて下さい。ミシガン州パルマの出身、ということでしたが、ご家族全員その辺りの出身なんですか？

クレーマー： 違います。実はミシガン州のザ・サム（親指、南東ミシガンの北）の小さな、小さな町、ミンデン・シティとハーバー・ビーチの出身なんです。両親には二人ともそれぞれ兄弟姉妹が十人いて（笑）、ほんとに大家族で、たくさんのいとこたちが走り回っている、という感じです。皮肉にも、私は一人っ子なんです（笑）・・・でも、母の姉（妹）家族とはずっと親しくしていて、彼女には二人子どもがいるので、そこに二人いとこがいるということで、彼らとは兄弟姉妹という感じになんです。一緒にたくさん旅行に行ったりしました。

例えばどんなところに行きましたか？

クレーマー： そうですね、毎年家族旅行とか、楽しい集まりが数回ありました。毎年必ずシーダーポイントには行くようにしていましたし、大体八月、学校が始まる直前で、最後の大きな「万歳！」的なものでした。それから春休みにどこかに行ったり、夏には大きな旅行に行きました。ディズニー・ワールドに行ったり、いくつかの州を巡ったり、とにかく手当たり次第行ってみる（笑）・・・

そういう所へはいつも車で行く、というか行っていたんですか？

クレーマー： 小さいころ、大体四、五歳のころは飛行機で行っていました。でも、大きくなるにつれ、車で行った方が安いと両親も気づいて（笑）・・・そこから 12 時間の楽

しいドライブ旅行が始まりました (笑)。

西の方はどうでしたか？ 西の方に旅行に行かれたということですが、どんな感じでしたか？

クレマー： ミシガン州から出発して、ミネソタ州に上って、両ダコタ州を通って、最終的にはグランドキャニオンに向かっていく、という二週間の西への旅に行きました。その間、多くの場所でとまって、いくつか数えきれませんが (笑)・・・、とにかくドライブしまくってあちこちとまって、二週間転々としていました (笑)・・・

結婚して自分の家族ができれば、同じようなことをすると思いますか？

クレマー： 多分しますね。「私たちが子どものころやったんだから、あなたたちもやらないきゃだめよ」っていうような感じで (笑)・・・

ご両親とも兄弟姉妹が十人ずついらっしゃる、と言っていましたが、おじさん、おばさん、それからいとこたちとはみんなしょっちゅう会っていますか？

クレマー： 会うようにはしています。子どもたちもみんな大きくなってしまったんで、都合を合わせたりするのが難しくなって以前より大分回数は少なくなりましたが。でも大事な祝日、例えば感謝祭とか、クリスマスとか、復活祭とかの時には必ず集まります。それから二、三、小規模な親族会とかもあります。あと、レイバー・デーには教会のピクニックがあるので、それにはみんな参加するようにしています・・・

そういった集まりにはいつも何人くらい来るんですか？

クレマー： 20人から50人くらいまで (笑)。

つまり、同じ家系から60人ということになりますね。

クレマー： その通りです。

それは随分たくさんの人ですね、本当に。それでは他にいくつか質問ですが、サッカーと審判についてはどうですか？ いつからサッカー、またはサッカーの審判を始めたんですか？

クレマー： サッカーは三、四歳のころから始めました。ユース・リーグとかで。高校

まで続けましたが、その後は、今もまだたまにやりますが、遊びで、です。試合に出たり、外に出たくなったらやっています。審判は16歳の時に始めました。あちこち運転してお金を稼ぐことができることに気づきまして(笑)、ちょっとしたお小遣い稼ぎ、ガソリン代やら何やらを稼いだりするには結構簡単な方法なんです。

過去に賞を二つ受賞したことがあると聞きましたが、州からと、ミネソタ州からと。このことについて少し話してもらえますか？

クレマー： そうですね、ミネソタ州からののは、U.S.A. カップからのでしたが、そこで審判をやっていた一週間の間、よくやりました、というユース審判賞でした。結構かっこよくて、素敵なホイッスルを、金色のホイッスルをもらいました。

いいですね。

クレマー： 今では盾に名前が刻まれています(笑)。

素晴らしいですね。

クレマー： 州からののも似たような感じで、ユースの、よくやった、優秀賞というか・・・

今はどんな試合の審判をしているんですか？

クレマー： 小さい子から、お年寄りの試合までなんでも(笑)。

楽しいですか？

クレマー： 楽しいですね。それぞれ違ったやりがいがあります。小さい子どもたちの方は、教えたり、助けたり、という感じですが、お年寄りの方は(笑)・・・ コミュニケーションをとったり、愚痴を言うのをやめさせたり(笑)。

審判をしたり、サッカーを通して、友達もできましたか？

クレマー： はい。大学に入るにあたってこれがすごくためになりました。色んな新しい出会いがありましたし、別の学部・・・、教授やキャンパスでだけでなく、同じ年頃の人たちや、機械工学の専攻以外での友達もできました。

そうですか。それではまったく違ったグループの人たちとの付き合いもあるわけですね。

クレマー： そうなんです。ここで仲の良い友達の中に、政治学専攻の人がいますが、機械工学とはまったく違う分野です・・・

その通りですね。

クレマー： 理数系指向じゃない人たちともつき合えるのはとても良いことだと思います。

審判をすることを通して身につけたスキルで、人生の他の部分にも応用できそうなものはありますか？

クレマー： そうですね、色々なタイプの人たちと話せるようになったこと、切り替えたり適応したりできるようになったということは間違いなく言えますね。どんな状況でも、例えば誰かが自分に怒鳴っているとしたら、どうしたらその人が怒鳴るのをやめさせることができるか、どんなことを言ったらよいか、とか。それから・・・

怒鳴っているのをやめさせるのに一番良い方法は何かですか？

クレマー： ありません (笑)。

ないんですか？ 怒鳴っているのをやめさせる方法が分かっていたらいいですよ。それでは最後の質問ですが、このインタビューは日本にいて英語を勉強している人たちのために録音していますが、いつか日本に行ってみたいと思いますか？

クレマー： 面白そうですね。例えば食べ物の違い、アメリカで日本料理と考えられているものが、実際日本で言う日本料理と比べてどうなのか見るのなんていうのは絶対面白いと思います。まったく違うと聞きますが・・・

そうですよ、大きな違いがあります。それは確かです。それでは、今日本に行く予定はありますか？ それともまだ分かりませんか？

クレマー： 今の時点でははっきり分かりませんね。でもいつか、学校を卒業して、時間ができたら行きたいですね。一週間休むというのは結構難しいので。時差に慣れるだけで一、二週間必要だと思いますし (笑)。

その通りですね。13, 14 時間の時差がありますからね。

クレーマー： そうなんです。

まったくその通りですね。それでは、お時間を割いていただいて、ありがとうございました。リスナーのみなさんがインタビューを楽しんでくれるといいですね。

クレーマー： 呼んでくださってありがとうございました。

どうもありがとうございました。